

製品名: シスタチン SN ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab09700

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	CST1
別名	CST1; Cystatin-SN; Cystatin-SA-I; Cystatin-1; Salivary cystatin-SA-1
遺伝子 ID	1469.0
SwissProt ID	P01037
免疫原	抗血清はヒト CST1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

背景

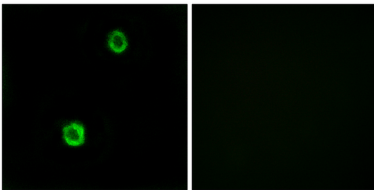
シスタチンスーパーファミリーは、複数のシスタチン様配列を含むタンパク質を包含する。メンバーの中には活性システインプロテアーゼ阻害因子を持つものもあれば、阻害活性を失っているか、あるいはそもそも阻害活性を獲得していないものもある。このスー

パーファミリーには、タイプ1シスタチン（ステフィン）、タイプ2シスタチン、キニンノーゲンの3つの阻害ファミリーが含まれる。タイプ2シスタチンタンパク質は、様々なヒトの体液や分泌物に存在するシステインプロテアーゼ阻害因子の一種であり、保護機能を発揮すると考えられている。20番染色体上のシスタチン遺伝子座には、タイプ2シスタチン遺伝子と擬似遺伝子の大部分が含まれる。この遺伝子はシスタチン遺伝子座に位置し、唾液、涙液、尿、精液に存在するシステインプロテアーゼ阻害因子をコードしている。[RefSeq提供、2008年7月],機能: ヒト唾液には、免疫学的にはシスタチンSと関連があるものの、アミノ酸配列の違いにより特異性が異なる複数のシステインプロテアーゼ阻害剤が含まれているようです。等電点7.5のシスタチンSNは、シスタチンSよりもパパイニンおよびジペプチジルペプチダーゼIに対する阻害能がはるかに優れていますが、フィシンに対する阻害能はシスタチンSと同等です。類似性: シスタチンファミリーに属します。組織特異性: 唾液、涙液、尿、精液に存在します。、

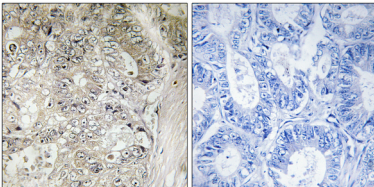
研究分野

-

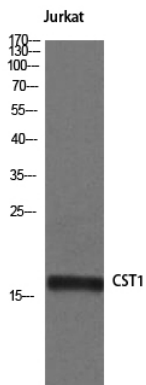
画像データ



CST1抗体を用いたMCF7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CST1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



シスタチンSNポリクローナル抗体を用いたJurkat細胞のウェスタンブロット解析